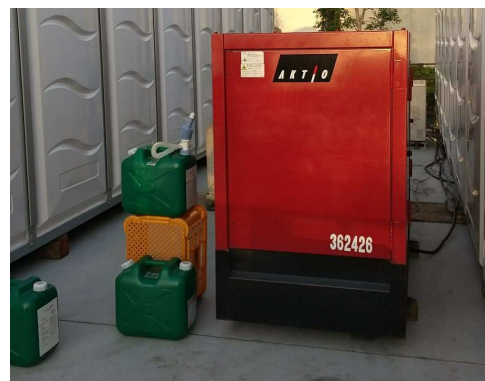


G7 広島サミット 自動車業界の展示会会場の発電機に ユーグレナ社の次世代バイオ燃料を使用

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲 充）は、2023年5月18日（木）～21日（日）に開催された「G7 広島サミット（主要国首脳会議）」において、一般社団法人日本自動車工業会（会長：豊田 章男 以下、「自工会」）が開催する自動車業界のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みを紹介する展示「Diversity in Carbon Neutrality -カーボンニュートラルにも、多様性を。-」の会場で使用した発電機の燃料として、当社の次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」（以下、「サステオ」）を一部使用したことをお知らせします。

今回、発電機に使用する「サステオ」は、バイオマス（生物資源）を原料とし、石油由来の軽油と分子構造が同じため、内燃機関を変更することなく使用できる次世代バイオディーゼル燃料です。この「サステオ」は、燃料を使用する際の燃焼段階では CO₂（二酸化炭素）を排出しますが、原料であるバイオマスが成長過程で光合成する際に CO₂ を吸収するため、燃料を使用した際に発生する CO₂ の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなるカーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。



会場で使用した発電機

日本の自動車業界は、2050年にCO₂排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルに向けて全力で取り組むことを宣言しています。また自工会では、かねてより「カーボンニュートラルへの山の登り方は1つではない」、CO₂削減は「みんなで協力して」「今すぐできることから」取り組む必要がある、という考えのもと、「多様な選択肢」の重要性を継続的に発信してきました。このたび会場で使用する電力においても環境配慮の観点から「サステオ」の使用に至りました。今回発電機に使用した燃料は、軽油と混合しない100%の「サステオ」を使用しています。

当社は、持続可能な社会の実現に向けて環境負荷低減に貢献するため、今後も次世代バイオ燃料「サステオ」の普及を目指します。

<株式会社ユーグレナについて>

2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。

<https://euglena.jp>